

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

# Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。今回は、「学校がしんどい」と感じることもとその保護者を対象とした、とびラーによるプログラムについて紹介します。

The Museum offers Art and Communication Project designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we look at programs created by *Tobira* for children who find school a "difficult place" and for their parents and guardians.

## 多様な子どもや家族に寄り添い「居場所」としての美術館を届ける

Spending time with children and their families at the museum, a "place" where they discover ways to participate.



### 東京都美術館 × 東京藝術大学 とびらプロジェクト

とびらプロジェクトとは、美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。都美を拠点に東京藝術大学と連携して行い、一般公募されたアート・コミュニケーター(愛称:とびラー)が、学芸員、大学教員らと共に活動しています。とびラーの活動「とびラボ」では、日々新たなプログラムが生まれています。

Tobira Project is a social design project to foster community through art, with the art museum as a base. In cooperation with Tokyo University of the Arts, art communicators (called *Tobira*) selected from the general public undertake museum-based activities in collaboration with curators and university faculty. New programs are continually launched at "Tobi-Labo" meetings.

### 「とびラボ」とは?

What is "Tobi-Labo"?

とびラーが自主的に行うミーティングを「とびラボ」と呼びます。「とびラボ」では集ったメンバーのアイデアやできることを大切にしながら、美術館を楽しむプログラムや、人々をつなぐ対話の場をつくっています。

"Tobi-Labo" consist of meetings independently planned and led by *Tobira*. At "Tobi-Labo," the *Tobira* use their own ideas and abilities to create programs for enjoying the museum and opportunities for people to talk and connect.

## 「学校がしんどい」と感じる 子どもと保護者のためのプログラム 「おいでよ・ぶらっと・びじゅつかん」とは?

*Oideyo, puratto, bijutsukan* ("Welcome to the art museum any time"): a program for children who feel "school is a difficult place" and for their parents and guardians.

よく晴れた11月の土曜日、3組の親子を迎えて「おいでよ・ぶらっと・びじゅつかん」を開催しました。「学校がしんどい」と感じる子どもを対象とするこのプログラムでは、子どものペースや関心に寄り添う過ごし方を大切に、とびラーとペアになってゆったり美術館をまわります。2021年から「とびラボ」の活動として始まり、今回は3回目の開催となりました。学校や集団行動が苦手な子どもと接したとびラーの経験や、「多様な子どもたちに美術館を居場所のひとつとして知ってほしい」という願いから生まれた企画です。

自己紹介の後、子どもととびラーは今日の気分や過ごし方について相談します。今回の活動のポイントは、美術館にある作品や建物をよく見て「お気に入り」を写真に撮ってくる。とび



おいでよ・ぶらっと・びじゅつかん *Oideyo, puratto, bijutsukan* ("Welcome to the art museum any time")

ラーは、子どもたちが安心して自分の気持ちを表現できるよう、言葉を待つことを大切に対話をすすめました。日本語が苦手な子、車椅子で移動する子など、一人ひとりに合わせたコミュニケーションを取りながら美術館を探検します。開催中の「展覧会 岡本太郎」の作品を見たり、建物のデザインや色を観察したりしながら、言葉や写真で発見を伝え合いました。到着した時はこわばった表情の子どもたちでしたが、徐々に緊張がほぐれ、後半には満面の笑顔で館内を巡る姿がありました。

子どもたちが展覧会に出かけている間、保護者もとびラーと建物や屋外彫刻を散策しました。この時間には「忙しい保護者の方にも、自分の視点で美術館を楽しんでもらい、また家族で訪れてほしい」というメッセージも込められています。

子どもたちが撮影した写真は、とびラーオリジナルの「パスポート」に貼って持ち帰ることができます。アンケートでは「学校で所在なげにしている子どもが、美術館で新しい発見ができたよう

でよかった」「親子それぞれの体験を帰ってから話すのが楽しみ」などの感想が寄せられ、充実した時間だったことが語られました。

とびらプロジェクトは始動から10周年を迎えましたが、常に活動の軸にあるのは、一人ひとりの眼差しを大切にしている対話の場づくりです。人々の心の豊かさの拠り所として、美術館での過ごし方をひらいていく活動を、これからも続けていきたいと考えています。

(東京都美術館 学芸員 峰岸優香)

*Oideyo, puratto, bijutsukan* is a program planned and facilitated by *Tobira* for children who find school difficult and for their parents and guardians. Initially started as a "Tobi-Labo" held by *Tobira*, the program was held a third time since its 2021 start. Forming pairs with a *Tobira*, children walked around the museum, the *Tobira* giving careful attention to each child's pace and interests. Participants, among them children poor at Japanese and children using wheelchairs, viewed artworks at the "Okamoto Taro: A Retrospective," observed the art museum building, and enjoyed strolling around the museum with the *Tobira*. Their parents and guardians also formed pairs with other *Tobira* and had fun seeing the museum and conversing with *Tobira*. Participants had varying impressions afterwards, such as "Children who find school boring were able to make new discoveries at the museum" and "The children and adults looked forward to going home and talking about their experiences."

(MINEGISHI Yuuka, Curator, Learning and Public Projects)